

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：32635

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25770017

研究課題名(和文) 中世インドにおけるヤントラ儀礼文献を中心とした異宗教間の相互関係

研究課題名(英文) The Mutual Relationship of Religions in the Medieval India with regard to the Yantra Rituals

研究代表者

倉西 憲一 (KURANISHI, Kenichi)

大正大学・仏教学部・講師

研究者番号：90573709

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：当該科研では、中世インドにおける二つの異なる宗教、仏教(インド後期密教)とヒンドゥー教(シヴァ派タントリズム)が重要視した儀礼用具ヤントラとそれを使用する儀礼について、主に文献学的なアプローチで、それら二つの宗教の相互影響関係を研究した。特に、仏教側はヤマリー系文献を、ヒンドゥー教側はダーマラ系文献を中心に、校訂テキストおよび訳註を作成し、それらをもとに研究を進めた。

こうした文献学的研究から、ヤントラという儀礼デバイスが異なる宗教でどのように使用されていたのかを、中世という時代に限ってはいるが、ひもとき、さらにヤントラが汎インド宗教的に極めて重要な役割を持っていたことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This project has studied on the mutual relationship between Buddhist Tantrism and Hindu Tantrism regarding to Yantra and its rituals, especially in the medieval India. This research has mainly done with philological approaches: to edit its related texts and to understand their contents. The texts are as follows: the Yamari literature (the Buddhist side) and the Damara literature (the Hindu side).

As a result of this philological research, I could shed light on how the yantra had been employed in two different religions and also how important the yantra was all Indian religions, especially as a ritual device.

研究分野：インド学・仏教学

キーワード：ヤントラ 中世インド インド後期密教 シヴァ派タントリズム ヤマリー系文献 ダーマラ系文献

1. 研究開始当初の背景

(1) ヤントラとは儀礼や成就法(息災や増益など世間利益的な願望を成就する法)に使用される道具またはお守りである。ヤントラは発祥地であるインドはもとより現在では世界中でよく知られており、特にお守りとしてのヤントラはインターネット上で購入することができる。こうした現在広く流布しているヤントラは6世紀後半頃からその役割や形状が複雑になりはじめ、本研究で対象とする仏教タントラ側のヤマール文献群とヒンドゥータントラ側のダーマラ文献群が台頭する8世紀後半から10世紀頃にそれを使った儀礼や成就法が整備されたものである。

(2) 従来、ヒンドゥー教側のヤントラに関しては多くの研究がなされている。特に近年出版された G. Buehneemann 他による *Mandalas and Yantras in the Hindu Traditions* (2003) は、従来のヒンドゥータントラに説かれるヤントラ研究を踏まえヤントラだけでなく、その類似性が顕著であるマンダラとの比較研究を広範囲にわたり行っている。一方、仏教側のヤントラに関しては国内外を問わず全くといってよいほど研究されていない。それは13世紀頃のインドでは仏教は事実上消滅し、その後ネパールやチベットへ伝えられたが、儀礼などの道具としてのヤントラに関しては特に重要視されておらず、ヤントラ関連の文献がほとんど残されていないことが要因であろう。

(3) そこでヤントラを使った儀礼や成就法がインドにおいてどのように整備されたのかを探るためには、お互いに影響し合った異なる宗教の同時期に整備した文献をひもとくことが必要となる。

(4) 当該科研は、研究開始以前に研究代表者が2008年7月に東北大学へ提出した博士論文『ヤマール文献の研究』に掲載したクリシュナヤマールタントラとその関連文献の校訂テキストおよび訳註に基づいている。

2. 研究の目的

(1) これまで申請者が行ってきた仏教側のヤントラ研究を下地とし、本研究が目的とすることは、インドの儀礼発展史の中でも特にタントリズム隆盛時代ともいえる8世紀後半から10世紀にヤントラを使う儀礼や成就法がどのように整備されたか、異なる二つの宗教すなわち仏教(本研究ではインド後期密教)とヒンドゥー教(ヒンドゥータントリズム)の文献をもとに考察することにある。

(2) そこで研究期間内に達成すべき具体的な目標として以下の三つが挙げられる。

仏教側の文献であるヤマール文献群からヤントラに関する記述を抜き出し、その部分の校訂テキストを作成する。ヤマール文献群の中でもヤントラがどのように扱われていったかを著作の年代等も検討し考察する。

ヒンドゥー教側の文献はダーマラ文献群を扱うが、ほとんど校訂されていないので、写本から自ら校訂テキストを作成し、そこに説かれているヤントラの儀礼や成就法をまとめる。

上記二つを踏まえ、ヤントラの記述における異宗教間の相互影響関係を総合的・多角的に考察する。

3. 研究の方法

(1) 上記2(2)で掲げた三つの目標をそれぞれ達成するために、以下の順に遂行した。

校訂テキストおよび訳註作成と関連する文献の写本発掘作業。

仏教タントラ側：ヤマール文献中のヤントラに関する記述の整理及びその校訂テキストを作成する。ただし、『クリシュナヤマールタントラ』とその関連文献は研究代表者の博士論文などで、すでに校訂テキストおよび訳註がほぼ完成しているので、その見直しをして精度を上げることが必要となる。さらに、並行して新写本の入手及び発掘に従事する。

ヒンドゥー教タントラ側：ダーマラ文献群の写本を入手し、特にこの文献群の主要文献である『ダーマラタントラ』及び『ウッダーマラタントラ』に関しては、既に出版されている校訂テキストと入手したこれら二つのテキストの写本と照らし合わせ、批判校訂テキストを作成する。研究代表者は仏教を専門としているので、分野外とも言えるヒンドゥータントラ文献の校訂解説作業には、ヒンドゥー教、特にシヴァ派のタントラ文献を専門としている国内外の研究者(オクスフォード大学 Alexis Sanderson など)との連携が必要となる。

研究分析：各文献群に説かれるヤントラに関する記述の分析及び既存のデータベースへその研究成果のデータを提供する。さらに、ヤントラとその儀礼の記述に関して、仏教とヒンドゥー教という異宗教間の相互影響関係を総合的・多角的に考察する。

4. 研究成果

(1) 研究成果は以下3項目に分けられる。

関連文献の校訂テキストおよび訳註完成。
仏教タントラ側として『クリシュナヤマールタントラ』(第4章・第5章・第6章)、
『サンヴァローダヤタントラ』(第10章)

の校訂テキストおよび訳註を完成した。また、『クリシュナヤマーマリタントラ』の註釈書『サハジャーローカ』と『ラトナーヴァリー』の関連箇所とヤマーマリ儀軌書『ヤマーマリマンドローパーイカー』の校訂テキストおよび訳註も完成している。さらに、『サンヴァローダヤタントラ』の註釈書『パドミニ』の関連箇所の校訂テキストおよび訳註も完成している。これらの関連文献は註釈対象であるタントラ自体の校訂訳註と相互に関連している。一方のヒンドゥータントラ側は『ダーマラタントラ』及び『ウッターマラタントラ』の批判校訂テキストおよび訳註を完成した。これらの成果は順次出版する予定である。

関連文献の研究分析とその出版。

上記で作成した校訂テキストおよび訳註をもとに、国内外の研究者との研究会で情報共有しつつ、中世インドにおけるヤントラ儀礼文献が仏教とヒンドゥー教の異宗教間でどのような相互依存関係が見られるか研究分析した。その成果としては、特に仏教タントラ側つまりインド密教におけるヤントラとその儀礼の重要性を当該関連学会（日本印度学仏教学会）において発表し、出版している。その他、研究結果は順次出版する予定である。

研究データのインターネット上へ配信。

ヤントラとその儀礼に関する専門語句のデータを既存のデータベース（Indo-Tibetan Lexical Resource）へ提供した。例えば、仏教タントラ文献に説かれているヤントラが作成される際に使用された素材の語句を挙げ、原語であるサンスクリット語およびそのチベット語訳を載せ、その語句が他の文献・文脈でどのように登場するかなどのデータを提供している。このデータは当該データベース運営側によって、データのチェックがおこなわれて公開されることになっている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計10件）

KURANISHI, Kenichi, The Historical Context of the Yantra Rites in the Vajrayana Literature, 印度学仏教学研究, 査読有, 第64巻第3号, 2016, pp.1227-1231.

KURANISHI, Kenichi, Some Remarks on the title of the Vajramandalamkala, 豊山教学大会紀要, 査読無, 第44号, 2016, pp.47-57.

KURANISHI, Kenichi, A Study on

Scholarly Activities in the last Period of the Vikramasila monastery: Quotations in Ratnaraksita's Padmini, 東洋文化, 査読有, 第96巻, 2016, pp.49-61.

KURANISHI, Kenichi, Yantras in the Buddhist Tantras-Yamaritantras and Related Literatures, Puspika: Tracing Ancient India, through Texts and Traditions Contributions to Current Research in Indology, 査読有, Vol.1, 2014, pp.265-281.

KURANISHI, Kenichi, Daudipada and Guhyavali, 印度学仏教学研究, 査読有, 第62巻第3号, 2014, pp.(203)-(207).

〔学会発表〕（計8件）

倉西憲一, インド密教におけるヤントラとその役割, 日本印度学仏教学会, 2015年9月19日～20日, 高野山大学(和歌山県伊都郡)

KURANISHI, Kenichi, Seeking for Scholarly Activities among Sanskrit Manuscripts, Geumgang-Taisho Joint Seminar, 2015年8月21日, 金剛大学, 忠清南道論山市(韓国)

倉西憲一, 『金剛場莊嚴』所説の「十二地」について, 豊山教学大会, 2015年6月18日～6月19日, 真言宗豊山派護国寺宗務所(東京都文京区)

KURANISHI, Kenichi, Quotations and re-quotations: Scholarly activities in the Buddhist mansteries, Tantric Communities in Context: Sacred Secrets and Public Rituals, 2015年2月5日, Institute for the Cultural and Interectual History of Asia, Wien(Austria)

KURANISHI, Kenichi, Daudipada and Guhyavali, 日本印度学仏教学会, 2013年8月31日～9月1日, 島根県民会館 島根県松江市)

〔図書〕（計3件）

高橋尚夫・木村秀明・野口圭也・大塚伸夫(編), 倉西憲一, 春秋社, 初期密教思想・信仰・文化, 2013, pp.98-206, 148-157, 158-165.

〔その他〕

ホームページ等

Academia.edu (KURANISHI, Kenichi)

<https://tais.academia.edu/KenichiKuranishi>

ITLR(Indo-Tibetan Lexical Resource)
<http://www.itlr.net/test.php?md=view>

6 . 研究組織

(1)研究代表者

倉西 憲一 (KURANISHI, Kenichi)

大正大学・仏教学部・講師

研究者番号：90573709